



新アンコール現地レポート 14

三輪 悟

「シェムリアップ歯科治療事情」

—首都プノンペンから地方都市シェムリアップへ—

1. カンボジアと歯科治療

シェムリアップに長く住む知人より、「歯科治療はバンコクが良いよ」とずっと聞かされていた。またある人よりシェムリアップで治療したら「腫れてしまった。水が悪かったようだ」などと聞いた。恐れをなした筆者は長らく歯のトラブルはプノンペンへ行き解決してきた。虫歯などの歯科治療は保険が適用できないため、高額請求されても全て自腹である。

2. シェムリアップの歯科医院

とは言え、最終的にプノンペンへ行く前、2002年に一度町の歯科医を見て回ったことがある。とある医院で設備を知りたかったため、一度診療台に座り、口内を見てもらった。「後日来る！」と帰ろうとすると、見ただけなのに、数ドル請求された。やはり、外国人には難しい、と思いプノンペン行きを決めた。また噂話だが、免許を持つ歯科医は町に1人で、他は無免許だと聞いた。ただし真実のほどは未確認。

3. プノンペンでの治療

2002年8月プノンペンに行き、カンボジアで初めて歯の治療を受けた。さすがにプノンペンには設備の整った医院が多くあった。X線機材もあるし、助手もついている。正直、これだけで精神的にはほっとしたものだ。日本でも同様だが、どうも歯医は苦手で、治療台に横になると、無用に緊張する。薬代等も含めると、治療には最低で50ドル前後、最も多く払った時は200ドル超だった。ドクターは外国人とカンボジア人を選ぶことが出来る。面白いことに、カンボジア人のドクターは土曜日でも仕事をするが、外国人ドクターは土曜日は休みだという。同じ歯科医院で何度か治療を受けたが、痛んだ親知らずを抜いたとき、外国人ドクターを選び、通常の治療ではカンボジア人を選んだ。土曜日でも時間を使えるため、時間節約が出来るからだった。シェムリアップで生活する筆者にとり「もう一度後日来るように」といわれることが最も困ることだった。日本で行なうような型を取り詰め物を作る、ということは余りやらない。理由は聞いていない。詰め物の材料は金属もあるし、プラスチック系の材料の場合もある。素材名は聞いていない。毎度治療が終わると、話す気もせず、いち早くホテルに帰るためだった。唯一カンボジアでの治療の良い点を挙げる。それは一度に2-3本の歯を同時に治療してくれることであった。日本では、お願いしても無駄である。

4. 再びシェムリアップへ

2007年4月中旬、左下奥歯の詰め物が取れた。その直後カンボジア正月となり、その後は5月初頭まで色々な予定が詰まっていた。5月中旬以降、現場が忙しくなり、予定が立たず、歯はそのまま放置した。途中プノンペン行きも検討した。しかし6月始め頃、今度は右下奥歯の詰め物が取れてしまい、食事があまりに不自由となった。そこで、意を決して2007年6月11日(月)シェムリアップの一医院を選んで治療を受けた。国道6号線沿いの普通の家の軒先に小さなガラス・ブースが作られている歯科医院だ。恐る恐るイスに座り治療を受けた。所要一時間余りで二本の歯は埋められた。途中、携帯電話が



掛かってきて、先生はしばらく話していたが、まあそれは愛嬌。プラスチック系の材料を詰めたようだが、その後歯全体を丸く削りすぎた気もするが、それもまあ愛嬌。病院の先生は「選んで決めたら、信用し任せる！」との主義からだ。治療費は2本で10ドル。プノンペンに比し格安だ。仮に取れたら、また埋めればよい。2-3度繰り返してもプノンペンより遥かに安い。これで今後の歯科治療に対する方向性が生まれた。この日実に爽快な気分で帰宅したことを記憶している。



5. 一歯科医のたどった道

今回治療して下さった先生ヘイン・ブントン氏は、プレイヴェーン州出身で、1978年生まれの29歳。意外な若さに驚いた。10人兄弟の3番目で両親は健在という。良く覚えていないそうだが、10年位前にバタンバンの学校で歯科医の勉強をしたという。「何故歯科だったのか」理由を聞くと、「兄が勧めたから」という。91年頃より歯科医の仕事を始め、今年から今の場所で開業している。

6. 今後の予測。雨後の竹の子状態の歯科

現在続々と高級歯科医院が増えている気がする。写真(下)のPachem Dental Clinicは2006年6月1日シムリアップにオープンした。プノンペンに3箇所のクリニックを持つノウハウを活かし、機材の充実度に驚かされた。日本の一般歯科医ではここまでハイテクを導入していない点を考えると、「設備に懲りすぎでは？」との疑問も湧いた。設備投資分を治療費で取り返すことを考えると幾分足が遠のく。先生はカンボジア人2名で、外国人は居ないと言う。ただし日本の歯科医と協力関係にあるという。その内容の詳細はわからない。現地発行のフリー情報誌「ニョニュム29号」(2007年6-7月号)21ページ下に広告が掲載されていた。



一般にカンボジア人の歯を見ていると美しい。中を覗き込んだことは無いが、虫歯が一本も無い人も多い。今後、暮らしの変化と共に、食も変化し、糖分の摂取量増加等により虫歯は増える傾向になると予想される。恐らくその変化は既に始まっているはずだ。需要と供給の関係より、今後も歯医医院は増えると思われ。

<三輪 悟のプロフィール>

1974年01月17日 東京都江戸川区小岩生まれ

1997年10月よりアンコール遺跡国際調査団に参加

1999年日本大学大学院理工学研究科修士課程(建築学)修了

同年5月より現在までシムリアップに駐在し、アンコール・ワット西参道保存修復プロジェクトの現地責任者を務める。専門は建築史、文化遺産の保存修復学。

著書に『危機遺産からのSOS』(共著 p.113、NHK出版、平成18年)、『地球の歩き方、アンコール・ワットとカンボジア』(共著 pp.104-107、ダイヤモンド社、平成18年)、『アンコール・ワットを読む』(共著 pp.225-256、連合出版、平成17年)、『季刊文化遺産 - 特集アンコール文明を科学する -』(共著 p.52-55、(財)島根県並河萬里写真財団、平成16年)など。(2007年07月20日(金)シムリアップ)